

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の総合学科定時制高校である。教育活動を実践する上で、地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践し、基礎・基本の学力を定着させ、自尊感情の高揚を図ることで、志と生活力のある社会人を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、授業内容・方法等の改善を行う。

イ 本校生徒の能力・適正に応じた授業方法の開発・実践を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程を編成する。

ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程を編成する。

イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する。

ウ 松原高校との連携講座を充実し、本校で開講していない授業を積極的に受講できるようにする。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的回答(平成 26 年度 66.5%)を平成 29 年度には 75%以上に引き上げる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

ア 平成 22 年度に「スクールカラーサポートプラン集中支援事業」で整備した農園を活用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。

イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。

イ 実践的な職業教育を通じて資質や能力を高めるとともに就職につながる資格取得を充実させる。

※卒業生徒の進学希望者の進学率 100%維持と就職希望者の内定率を段階的に引き上げ、平成 29 年度には就職希望者の内定率 70%をめざす。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおいて取り組みを行い、中途退学・不登校を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)を引き上げ、肯定的回答を 70%以上にする。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 子どもたちの命を守る。

ア 教員による教育相談体制を整備し、生徒が気楽に相談できる雰囲気作りに努める。

イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。

ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

ア 長期欠席等の生徒の状況を詳細に家庭に連絡し、改善の協力を依頼する。

イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。

ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深める。

エ セーフティネットとしての定時制の役割を果たす意味で、転編入生を積極的に受け入れ、卒業まで導くサポートを行う。

また、高卒編入制度を活用して地域に開いた学校づくりを進める。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における担任以外に相談することができる先生がいる(平成 26 年度 43.6%)を平成 29 年度には 50%に引き上げる。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)を 80%以上で維持する。

4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上

(1) 学校運営体制の確立を図る。

ア 准校長のリーダーシップのもと PDCA サイクルによる学校経営を推進する。

イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を学校協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

ア 日常的な OJT の推進、校内研修の活性化を行う。

イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。

※校内研修、報告会を年間 5 回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒 65.1%→56.6%、保護者 41.7%→54.4%、教員 100%であった。</p> <p>生徒については、全 12 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 6 項目と改善が見られた。</p> <p>保護者についても、全 14 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 4 項目であった。</p> <p>教員については、全 53 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが 12 項目。5～10%増えたものは、6 項目あった。今年度は肯定的回答の割合が 10% 以上減少したものは 6 項目あったが、全体的には改善がみられたと考えている。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>生徒「わかりやすい授業が多い」(66.5%→68.5%)、保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(56.7%→55.8%)、教員「教材の精選・工夫を行っている」(90.9%→97.2%)「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」(86.9%→88.6%)であった。生徒に応じた工夫を教員が実践し、その効果が徐々に生徒や保護者の診断結果にも表れてきていると言える。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒「学校に行くのが楽しい」(59.8%→69.6%)、「先生は生徒達のことを、よく見て対応してくれる」(72.8%→73.5%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(71.3%→73.5%)、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(86.6%→84.5%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(82.8%→78.7%)教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(90.9%→88.6%)。若干評価がダウンした項目もあるが、常日頃より教員が生徒個々に丁寧に指導を行っていることが、生徒や保護者の理解と信頼を示す結果になっていると考える。</p> <p>・生徒「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」(51.7%→48.0%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(66.0%→59.7%)、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(83.6%→86.8%)、「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(85.0%→84.5%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(83.6%→82.2%)など、評価は若干ダウンしている項目もあるが、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・教員「学校運営に准校長がリーダーシップを発揮している」(87.9%→88.6%)、「准校長は日頃から、教育方針や学校運営方針を教職員に話している」(84.9%→88.6%)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(66.6%→71.4%)等学校組織に関する質問項目 16 項目のうち、11 項目で肯定的な意見のアップがみられた。</p> <p>・「教職員が色々なことに意欲的に取り組める環境にある」(78.8%→65.7%)、「職員会議等各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」(81.9%→71.4%)、「学校運営に、教職員の意見が反映されている。」(75.8%→68.6%)などダウンした項目について早急に改善できるよう対応が必要であると思われる。</p>	<p>第 1 回 (7/13)</p> <p>○H27 年度学校経営計画全般について</p> <p>中期的目標の方向性についての継続と「中期的目標 1・2・3」で文言の修正、「4」の追加と目標値の修正を行ったことの説明をした。</p> <p>○今年度の取組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用（特別非常勤講師、若年技能者人材育成支援等事業など）、農園を活用した取組み、支援学校との交流及び共同学習、公開講座、高校内における居場所づくりのプラットフォーム化事業、教育相談委員会、生徒支援チームの取組みについて説明した。 ・生徒の居場所づくり「なごみカフェ」の成果についての質問が協議員から出された。利用者は 10 数人だが、不登校だった生徒にとって授業に入る前のワンクッションの場になっており効果が出ている。また、臨床心理士の方が来校し、個別の相談を「なごみ相談」とし第 1・3 金曜日に実施、と説明。 ・昨年からの取組み「生徒支援チームのとりくみ」は要望があったので今年も継続実施。その中で「長欠生徒の家庭訪問」を実施。「支援学校との交流及び共同学習」についても、継続して行ってほしいとの意見も頂いた。 <p>第 2 回 (12/15)</p> <p>○学校教育自己診断 (11 月実施) 結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の提出率が増加。半数以上の回答があった。 ・「学校に行くのが楽しい」の項目で「よくあてはまる」が昨年は 23%であったが、今回は 32.6%になり、肯定的意見が 69.6%と高い割合を示していると報告。 <p>○授業アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回目を 6 月、第 2 回目を 11 月に実施し、11 月分の結果が未着のため昨年度との比較検討を行った結果、多くの項目においてもポイントが上がっていると、報告した。 ・授業を見ている中で、定時制は面倒見がよい。若い先生が多いが、生徒の立場に立って対応しているのが良いのではとの意見を頂いた。 ・先生方の努力や年齢の高い生徒の刺激がプラスになって、よくなっている。とのご意見も頂いた。 <p>○今年度の取組みの進捗状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校との交流及び共同学習を「ともに学び、ともに育つ」を踏まえ、ともに助け合い、支え合って生きてゆく大切さを学ぶ機会をもとに 2 回実施した報告を行った。 ・生徒支援チームによる基礎学力をつけるための「ふりかえり学習」「CAD 系ベシックセミナー」の 2 つの講座を開講。 ・第 15 回高校生ものづくりコンテスト近畿大会出場等の報告をすると、資格も取得でき生徒のモチベーションも上がっているとの継続していただきたいとご意見を頂いた。 <p>第 3 回 (2/19)</p> <p>○H27 年度学校評価 (案) について</p> <p>評価案の説明を行い、次のようなご意見提言を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュール授業 (数学) の取組成果を報告したところ、成果が向上しているところから、同じことをコツコツやることで生徒の基礎学力が向上している。先生方の尽力あつてのこととの意見を頂いた。 ・生徒のふりかえり学習 (基礎学力養成) でも生徒の満足感がうかがえる。これも先生方の尽力があつてのことと思われるとの評価が得られた。 ・資格取得に向けての取組みの報告、ジュニアマイスターでのゴールド獲得の報告を行ったところ、本校の資格指導の今後の取組みに期待する意見があった。 <p>○H28 年度学校経営計画 (案) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標数値を追加、変更等について説明 ・学校の今後の取組について「安心」「自己有用感を持たせる」「生徒に自信を持たせるための資格取得」等の説明をしたところご理解を頂く。 <p>○近況報告及び今後の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動について報告。PAT 会長より毎回楽しく活動に参加していると意見を頂いた。 ・教育相談委員会主催の、教員、保護者向けの研修の報告をしたところ、保護者向け研修に参加した委員より、大変参考になった研修だったと評価を頂いた。 ・「生徒支援チーム」の取組みについての報告で教育サポーターの活用や、ふりかえり学習 (基礎学力養成) の実施に理解を頂いた。 ・資格取得の充実に向けての取組みについて報告。 <p>○本校に期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営において PDCA サイクルによりチェックし反省・総括を行っているが、次に学校課題の改善により力を入れていく必要があるのでは。OJT による教員研修の実施などを通じ学校の活性化の向上がうかがえる。先生方のご尽力があつてのことではないかと考える。生徒の支援など今後の更なる取組みに期待する。

府立藤井寺工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の向上 (2) 特色ある教育課程を編成	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、PDCAサイクルに基づいた授業内容・方法の改善を進める。 イ 授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業（理数、国、英）を1年生を中心に継続・拡大する。 (2) ウ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を70%以上にする。(26年度66.5%) イ モジュール教材の見直しを行う。最初の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率5%アップを達成する。(26年度50%) (2) ウ 外部講師による授業をさらに充実させるための校内での検討を行う。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度は67.8%であった。今後、学校全体として授業内容・方法の改善を更に進め目標達成に取り組みたい。(○) イ モジュール授業については、1年生を中心に理数、国語、英語の各教科で継続して行った。モジュール教材の見直しも毎年行い、成果が上がり、「勉強が楽しくなった」と生徒からの評判も良い。数学の基礎学力向上力診断テストの正答率5%アップ達成(◎) (2) ウ ものづくりコンテスト近畿大会に定時制生徒として唯一出場。外部講師の細やかな指導により、生徒秋季発表大会作品の部で大阪府教育委員会賞、教育振興会賞を受賞 ジュニアマイスターでゴールド受賞(◎)
2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養 (2) キャリア教育の充実・資格取得の促進 (3) 中途退学の減少	(1) ア 「農園プロジェクトチーム」を中心に、平成22年度「スクールカラーサポートプラン集中支援事業」で整備できた農園を使用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。 イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 (2) ウ 就職につながる資格取得の促進を通じてキャリア教育の充実を図る。 自動車整備士、危険物取扱者、CAD利用技術検定、基礎製図検定、小型フォークリフト、アーク溶接、ガス溶接、調理技術検定、パソコン検定、漢字能力検定など 生徒の進路が実現できるように支援内容を充実する。 (3) エ 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度70%以上を維持する。(26年度72.0%) 生徒が農園で収穫する機会を年間4回以上にする。 イ「クリーンキャンペーン」を年間4回以上実施 (2) ウ 資格取得数は、年間延べトータル数100以上を維持する。 進学希望者の進学率(昨年100%)を維持、就職希望者の内定率(昨年度58%)を60%へアップをはかる。 (3) エ 中途退学率昨年度比5%減少させる。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の学校に対する満足度は、関連する3項目の平均が72.2%と維持することができた。次年度は目標をやや上方修正で取り組む。生徒が農園で収穫する機会を5回設定できた。(○) イ「クリーンキャンペーン」は、年間4回実施し、生徒のボランティア意識と規範意識を高めることができた。「こころの再生」府民運動@スクール表彰を頂く(◎) (2) ウ 資格取得数は、トータル数108(新たな資格受験が3種増加)になった。 卒業生徒の進路実現率は、進学(希望者10名中合格者10名)実現率100%、就職(就職試験受験者19名中内定者15名)実現率78.9%である。就職については引き続き指導を続け、実現率のアップをはかる。(◎) (3) エ 中途退学者は、昨年度55人、今年度は、24人である。年度末に退学者が出るが、それを勘案しても目標は達成できる見込みである。(◎)
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1) 子どもたちの命を守る (2) 学校・家庭・地域の連携	(1) ア 多様な生徒の相談や相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実やカウンセラーの活用を図る。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。 (2) エ 学年通信等を発行する等家庭への連絡を頻繁にし、家庭との連携を深める。 オ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。 カ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続する。 キ 転編入生の積極的な受け入れを行う。地域の方対象の公開講座の受け入れも広報を通じて積極的に行い、拡大する。	(1) ア スクールカウンセラーの活用活性化及び教育相談体制の充実により、生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」を45%に引き上げる。(26年度43.6%) イ 交通安全教室を年間3回開催 ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。 (2) エ 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度80%以上を維持する。(26年度82.6%) オ 生徒出身中学校全校訪問の維持(70校以上)する カ 年間に10団体程度を農園に招待する。(26年度延べ10団体) キ 公開講座を年間5回程度実施する。	(1) ア 一昨年度から配置のスクールカウンセラーと連携をとり、教育相談を充実させた。延べの相談件数は32件、ケース会議は7回、保護者向け講演会、教員研修、初任者研修を各1回ずつ行った。(◎) 「スクールカウンセラーの活用活性化及び教育相談体制の充実」が図られ「担任以外に相談することができる先生がいる」46.4%に増加。(◎) イ 交通安全教室は、4回実施した。(◎) ウ 薬物乱用防止教室を2回開催。(○) (2) エ 学年・学級通信の発行、家庭への連絡を増やし、家庭との連携を進めるも保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は78.3%で昨年より4.3%下がった。更に連携を深める中で目標を達成する。(△) オ 在校生徒の出身中学校50/50校を訪問し、府内計68校の中学校訪問を行い、情報交換と本校の教育活動の理解のための広報を行った(○) カ 農園を活用しての地域連携は、延べ14団体(776名)を招待し、地域の方との連携深めることができた。また、高槻支援学校との交流を2回実施した。(◎) キ 公開講座を7回実施、延べ52名が学び、地域の方から好評を得た。(◎)

府立藤井寺工科高等学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上	<p>(1) 学校運営体制の確立を図る</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図る</p>	<p>(1)</p> <p>ア P D C A サイクルによる学校経営を推進する。</p> <p>イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を学校協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)</p> <p>ウ 日常的な O J T の推進、校内研修の活性化を行う。</p> <p>エ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない資質向上を図り、人材育成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育活動の活性化及び校内課題解決に向け校内で課題検討を行い校内課題の解決を図る。教員向け学校教育自己診断「教育活動について、教員間で日常的に話し合っている(26年度72.7%)を75%に引き上げる。</p> <p>イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている(26年度55%)」を60%に引き上げる。</p> <p>(2)</p> <p>ウ 各種校内研修を5回以上実施する。</p> <p>エ 外部研修会への推薦、参加者による校内研修報告会5回を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 校内課題の解決に向けての検討について検討の機会が十分に取れなかったのが原因と思われるが、教員間で課題意識が高まりつつあり、今後更に校内課題の解決のための検討を進める。「教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」74.3%に増加するも目標達成ならず。(○)</p> <p>イ 昨年度の自己診断アンケートを受けて、教員間での意識改革ができたことが「次年度の計画に生かしている」85.7%にアップすることができた。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ウ 職員人権研修2回、初任、新着任者研修8回、若手教員研修3回、授業力向上研修1回の実施。(◎)</p> <p>エ 経験の少ない教員の他校への研修参加、述べ6名。校内研修報告会を5回実施した。(○)</p>